

株式会社
JAライフ
クリエイティブ

JA葬祭 新盆商品についてご紹介

お盆とは、先祖の霊があの世界から家族のもとへ帰り、家族と共にひとときを過ごし、再びあの世界へ帰って行くという日本古来の祖霊信仰と仏教が結びついてきた行事です。供養の一つとして、先祖のおもてなしをするために盆棚を作り、故人の好物などを供えます。盆棚の飾り方を参考にさせていただき、先祖代々受け継がれている盆棚の意を、家族と一緒に考えてみてはいかがでしょうか。

只今JAでは、新盆商品（盆提灯、新盆用返礼品）の取扱を実施しております。詳しい内容については最寄りのJAへお問い合わせください。



盆棚



戒名・家紋入り提灯

《盆棚の飾り方》



- （盆棚にまつわるプチ情報）※イラストは一例で、地域によって異なります。
- ①素麺（喜びを細く長くという縁起をかつぐ意味がある。）
 - ②昆布（喜びの気持ちを意味する。）
 - ③ほおずき（精霊が迎え火や提灯を頼りに帰っていくことから、ほおずきを提灯見立て灯を意味する。）
 - ④生花（先祖や生きている方の心を清める意味がある。）
 - ⑤なすの牛・きゅうりの馬
（精霊があの世界から帰って来る時は、馬に乗って少しでも早く帰って来てもらい、この世から帰って行く時は、景色を楽しみながらゆっくり牛に乗って帰ってもらうと意味がある。）
 - ⑥水の子（きゅうりやなすをさいの目に刻み洗った米を混ぜ合わせたもので、喉が乾かないように乾いた喉を潤してもらう意味がある。）
 - ⑦みそはぎの花（悪霊を払う意味がある。）
 - ⑧夏の野菜・果物
（百味五果といい、季節の野菜や果物をたくさん供える。先祖の好物を供える。）

園芸部

春野菜視察研修会 春野菜販売対策会議開催!!

春本番、生産者・JAグループが
一体となって春野菜の有利販売に取り組みます。

5月9日（火）福島県内において、県内JA、福島県農林水産部、消費地の青果物卸売市場を参集し、福島県の春野菜を代表する豆類（さやえんどう、スナップエンドウ）・アスパラガス・ブロッコリーの園地視察研修販売対策会議を実施しました。

午前中は、それぞれの品目・方部にて圃場視察研修会を開催しました。JAふくしま未来では豆類（さやえんどう、スナップエンドウ）、JA夢みなみではブロッコリー、JA会津よつばではアスパラガスを現地視察しました。関係JAの指導員や視察圃場生産者から現在の状況などをお話しいただき、参加者全員で圃場の様子と今後の出荷見通しについて確認し合いました。



今年も関係者一丸となって取り組みます！



圃場にて生育の状況を確認しました

センターにて販売対策会議を開催し、県内JAからそれぞれの主力品目の今後の出荷動向の説明をいただき、青果物卸売市場からは、主力春野菜の販売に関する取組みと、今後の販売の見通しや産地への要望を報告いただきました。当県本部からは春野菜の販売方針と、今年度取り組んでいく消費宣伝活動計画について報告いたしました。

今年も関係者一丸となり、スタートとなる春野菜の有利販売を実現し、夏秋野菜に向けて弾みをつけるべく取組んで参ります。

畜産部

自慢のホルスタインが勢揃い!! 第48回福島県ホルスタインショー開催

福島県酪農青年研究連盟は、4月22日（土）に本宮市にある県家畜市場で第48回福島県ホルスタイン共進会を開催しました。出品総頭数は37頭で、JAグループでは12頭の出品がありました。審査員は牛の体貌や骨格、肢蹄、乳器などの良さを審査しました。

JAグループからの出品牛の成績は、第1部（生後7ヶ月以上12ヶ月未満の未經産牛）で、JAふくしま未来の鈴木奨悟さんの「ヒルトンステージ アテイツク ジエノア」が1等賞に輝きました。また第5部（生後36ヶ月以上48ヶ月未満の経産牛）では、JA会津よつばの浅川輝大さんの「シヤローリバー マダム ダミオン ナンシー W8」がベストアダール賞に選ばれました。

未来の後継者となるべく子供たちが参加したジュニアショーも行われ、鈴木琥太郎君（JAふくしま未来）がグラウンドチャンピオンを獲得しました。おめでとうございます。

【出品者は次のとおり】（敬称略）
JAふくしま未来（鈴木奨悟、古関政人）
JA福島さくら（一ノ瀬正幸）
JA会津よつば（成田昌弘、浅川輝大）



素晴らしい手綱さばきで会場を魅了した未来の後継者たち



第1部 1等賞に輝いた鈴木さんの出品牛

管理部

風評払拭対策に向けた 取り組み

JAグループ福島では、農林水産省・復興庁などの国、県の関係機関と、福島県産農林水産物の風評払拭対策協議会をつくり、福島県産農林水産物の風評払拭に向けた取組みを行っています。

JA全農福島もそのメンバーとして参画しております。

4月28日に福島市内で第2回協議会が開催され、JA福島中央会の大橋会長、猪股県本部長など関係者が出席し、販売促進に係る主な取組状況と課題認識、消費者に向けた福島県産農畜産物の新たな発信方法、今後の取組みの方向性についての協議・意見交換を行いました。

協議会では、新たな取組みとして、福島県産農林水産物の風評払拭に向け流通実態調査を農林水産省が行う予定としており、福島県産農林水産物の販売促進につながるために、継続的に実務関係者と協議していくことで方向性を確認しております。



風評払拭に向けた具体的な方策を協議して参ります

調査は、主要品目を対象に、各流通段階での販売量・取引価格の変動要因、販売回復の好事例などを分析対象として調査を行います。

JA全農福島としても効果的な販売対策が図れるように国や関係機関とも協力して取り組んでまいります。